

みえの子ども応援プロジェクト

ありがとう

第15回

ありがとうの一行詩  
コンクール作品集

三重県

## 「ありがとうの一行詩コンクール」に寄せて

15回目となりました「ありがとうの一行詩コンクール」に、今年もあたたかい「ありがとう」の気持ちを、お寄せいただきました。

家族や友だち、地域の方々に、普段は面と向かって言えない「ありがとう」の想いを、一行詩にすることで、普段自分を支えてくれている周囲の方々のやさしさに気づくとともに、感謝の気持ちをより一層抱いていただけたと思います。

この「一行詩コンクール」の開催をはじめ、三重県では「子ども条例」に基づき、子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりに取り組んできました。

条例制定から10年以上が経過し、改めて子どもを取り巻く社会情勢の変化や課題をとらえ直す必要があると考えています。そのうえで、「子ども条例」の見直しや、県の子ども施策の取組方向を定めていく予定です。

子どもは三重の宝です。全ての子どもが健やかに成長し、将来にわたって幸せに生活できる社会をつくるため、引き続きお力添えいただきますよう、よろしく願います。

# Contents

## 家族部門

最優秀賞	2
協賛企業賞	3
優秀賞	7
佳作	8

## 友だち部門

最優秀賞	12
協賛企業賞	13
優秀賞	14
佳作	15

## 地域部門

最優秀賞	16
協賛企業賞	17
優秀賞	19
佳作	20

## 審査委員メッセージ

21
----

最優秀賞



亡き夫へ

夫を自宅で介護する日々。あなたから、たくさん  
 さんの「ありがとう」の言葉をもらって頑張っ  
 てくれた私。残された手帳に「ありがとう」の  
 文字が。涙がとまらないよ。

熊野市 70代 間部 伊佐子

最優秀賞 選評

何十年もの暮らしの積み重ねの上にある「ありがとう」は、  
 どれだけ重みのあるありがとうでしょうか。たくさんの方の今までの  
 夫との生活が映像として残っていることでしょうか。そこに言  
 葉をのせていくと、さらに思い出深いものになるのだと思いま  
 す。この作品には書かれていませんが作者さんの夫に対するあ  
 りがとも伝わってきました。これから、元気でいてくださ  
 いね。

審査委員長 村上 しんこ (児童文学作家)



## 有限会社小林組賞

5月に亡くなった父へ

障がいには負けず、必死に育ててくれてありがとう。前向いて生きていきます。でもまた会いたい。車椅子はそのまま軒先に置いておくから、いつでも空から会いに来て。

熊本県 40代 田村 総太郎

## AI+学習LABO-MIE賞

ママへ

ママありがとう、おしごとがんばれー！っておもってるんだあ。おうえんするからね、わたしママのこともだもん。がんばりやさんのひよこは、がーんばれー！っていつてあげるの。

津市 幼稚園児年長 堀田 陽向

平松産業株式会社賞

おじいちゃんへ

もう会えないけど、「大の仲よし」っていつてくれたよね。今もきつと天国のどこかで見守ってくれている。小さい時は言えなくてごめんなさい。大好きだよ、おじいちゃん。

松阪市 中学2年生 松崎 ののか

有限会社深緑茶房賞

お母さんへ

緊張で笑顔引きつる大会日。背中をポンと押す母の無言の笑顔にありがとう。

松阪市 中学3年生 穂積 瑠璃明

## 日本トランスシティ株式会社賞

お父さんへ

私が小学生の時、運動会全力で頑張ったけど最下位だった。帰り道に、よく頑張ったな、えらいぞって言ってくれてありがとう。結果より過程を大事にしてくれて嬉しかったよ。

津市 高校3年生 重留 理紗子

## JAGグループ三重賞

おばあちゃんへ

毎日早起きして、玄関の掃除をしてくれてありがとう。僕の毎日、いつだっておばあちゃん磨いた玄関から始まるんだよ。今日もまた、いつきます。

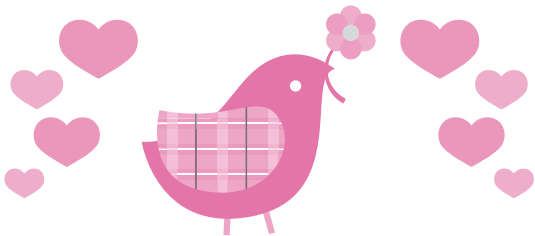
埼玉県 大学4年生 佐々木 俊輔

特定非営利活動法人  
日本徒手空拳道連盟優真会賞

障しやうがいがある息子むすこたちへ

君きみは他の子ほかこに比べくらべて、成長せいじやうがゆっくり。だから、君きみのことをいっぱい考かんがえて、想像そんじやうしないと  
いけない。こんなに幸しあわせなことはないと思おもう。  
君きみのパパとママにしてくれてありがとう。

菰野町 40代 内田 恭史





優秀賞

おとうさんへ

いつもおふるまでいっぱいおはなしきいてくれてありがとう。しょんぼりしてるときも「がんばりな。あやちゃんならでまいるはずやで。」といてくれるからパワーがでてがんばれるよ。ありがとう。

玉城町 小学1年生 橋本 采奈

お母さんへ

喧嘩して口も利かずに過ごしてた それでも用意されていたあたたかいご飯 心にも優しいあたたかさ お母さんいつもありがとう

大紀町 中学2年生 玉井 美羽

お母さん おばあちゃんへ

「何食べたい？」その優しさを 噛み締めて  
 ※これは（母がご飯の支度をする前に）母からよくされた質問です。母と死別してからしばらく耳にすることができなかった言葉ですが、久しぶりに祖母からこの質問をされてとても懐かしく思うと同時にとても愛を感じられる言葉だと気付かされました。

中学3年生

母へ

女手一つで育ててくれた母。たくさん迷惑をかけ、たくさん頭を下げさせてしまったことにごめん。私も母みたいな立派な社会人になってみせます。いつもありがとうございます。

津市 高校3年生 伊藤 碧

夫へ

そばにいとくと優しくなでて、私の好きなチョコをこっそり買っておいでくれる。そんなあなたと結婚できて幸せだよ。あなたと一緒に過ごす最強！私と生涯を共にすると誓ったあなたも最強！ありがとう！大好き！

四日市市 30代 原 若菜

## 家族部門

にいに入

にいに、しゅくだいがんばっていつもおしえてくれてありがとう。だいすき。もうきらいっていわないから。だいすき。

鳥羽市 小学1年生 木下 結愛

天国のひいばあちゃんへ

たくさんお世話してくれたね。ぼくもひいばあちゃんに最初で最後のお世話をしたよ。白いくつ下をはかせてあげたよ。少しせつない気持ちになったけどありがとうという気持ちはずつあふれてきたよ。

四日市市 小学6年生 佐藤 嵩大

おばあちゃんへ

おばあちゃんのお手伝いをするといつも言われる「おおきんな」私にとってその言葉が笑顔の魔法になってるよ

玉城町 小学4年生 竹内 心菜

ばあばへ

私が将来の夢を伝えた時からずっと応援してくれてありがとう。おかげで本気で頑張ろうと思えたよ。夢が叶うまでは大変だけど、これからも長生きして応援してね！

中学2年生

お母さんへ

家に帰り、「疲れたー」その一言で何かあったと気がついてくれる。ありがとう。お母さんは変化に気がついてくれる。たった一人の私の母。

津市 中学3年生 東 優衣奈

妹へ

もうすぐ受験で少し不機嫌な妹を置いて出かけるある日のこと。妹がこっそり母に「お兄ちゃんが喜ぶものを買ってあげて」と言うのが聞かえて、心がホッとした。ありがとう。

名張市 高校2年生 石橋 廣仁



祖母へ

小さいときから毎日料理作ってくれてありがとう。今では九十歳になって、前みたいに料理は作れなくても、私が作るから大丈夫だよ。私も少しずつ料理頑張るね。

松阪市 高校3年生 鎌倉 萌愛

父ちゃんへ

一人暮らしをしてからお父さんの優しさに気付きました。普段は心配なんてしないお父さんが風邪をひいた時に毎日のように「体調どうや」って送ってくれたこと。嬉しかった。父ちゃん、帰ったら沢山話そうね。

津市 大学1年生 竹内 琉華

息子へ

「かあたんがええんや。」泣きながら、笑いながら、すねながら、はにかみながらきこみは言う。かあたんもな、きみがええんや。大好きや。生まれてきてくれて、ありがとくな。

岡山県 40代 難波 亜紀

## 最優秀賞



友人へ

あなたがいつも「頑張れ」ではなく「頑張っているね」と言ってくれるから、もっと頑張れるんです。ほんの少しの違い、ほんの少しの心遣い、そしていつも私の頑張りを見てくれること、ありがとうございます。

愛知県 20代 仲川 暁実

## 最優秀賞 選評

誰かがどこかで見えていくれるって、こんなにも頼もしいこととはありませんね。ましてやそれが友だちなら尚更のこと。そしてその友だちも素敵だと思いました。相手が今、本当に必要としていることを、ちゃんとわかっただけあって、なかなかできることではないですよ。今は生きづらい社会と言われていますが、こつした心の機微をとらえることのできる人になりたいと、この作品を読んで感じました。

審査委員長 村上 しほこ(児童文学作家)

## 友だち部門

### IXホールディングス株式会社賞

友だちへ

私が学校行くの辛いと打ち明けた時。「一緒においしいご飯食べに行こう」と誘ってくれて、ただ楽しいだけの時間を作ってくれたね。そのおかげで今学校が楽しいです。ありがとう。

津市 高校3年生 米川 怜奈

### 株式会社NITジオテック中部賞

友達へ

コロナ禍で数年ぶりに親友の家に行く。一緒に飲もうと、冷蔵庫の中には私の好きな食べ物ばかり。友と久しぶりに過ごす楽しい時間を特別なものにしてくれてありがとう。

名張市 40代 石橋 陽子

## 友だち部門

### 優秀賞

友達へ

あの時相談に乗ってくれてありがとう。おかげで心がずっと軽くなり、今も元気に過ごしています。あの時投げかけてくれた言葉を信じ、これからも頑張っていきます。本当にありがとう。

大紀町 中学1年生 平野 杏奈

友達へ

ずっとありがとうって思ってた。でも、思ってるだけじゃ伝わらないってあなたの「ありがとう」で気づいたよ。今、思いを伝えるね。心の底から「ありがとう」って。

鈴鹿市 中学2年生 石田 結菜



## 友だち部門

### 佳作

同級生へ

毎日学校で声をかけてくれてありがとうございます。  
います。不登校だった私に、学校の楽しさを教  
えてくれてありがとうございます。おかげで毎  
日楽しいです。ありがとうございます。

いなべ市 中学2年生

友達へ

成功したとき「すごい」、「失敗したときでも  
「ドンマイ」。みんなの言葉にはげまされ、助け  
られています。いつも支えてくれてありがとうございます。

いなべ市 中学1年生 種村 琥貴

## 地域部門

# 最優秀賞



### 地域のひとへ

元気な遊び声におばあちゃんは元気をもら  
うんやわ。」と言ってくれてありがとう。

いなべ市 小学3年生 岡 蒼真

### 最優秀賞 選評

元気つていい言葉ですね。私も大好きな言葉です。そして  
なにより、元気はキャッチボールにたとえるなら、ボールの  
役割をしてくれます。元気があなたから私へ、また私からあ  
なたへ。私も若い頃はよくわかっていなかったけれど、五十  
歳を過ぎると子どもたちからもう声や言葉が、とてもうれ  
しくて、元気づけられます。これからもたくさん言葉と元気  
をおくってね。

審査委員長 村上 しいこ（児童文学作家）

天元工業株式会社賞

地域のひとへ

ゆうきをだしてあいさつしたら、やさしいお  
へんじありがとう。

いなべ市 小学1年生 渡辺 光

三重県商工会連合会賞

給食センターの人へ

中華丼、いわしの梅煮、のり和え……。な  
んであんなにおいしいのかな。給食センターの  
人達の優しい気持ちがいぎゅっとつまっているか  
らかな。今日もおいしくいただきます。

いなべ市 中学2年生 高田 鈴奈

株式会社廣嶋組賞

地域のひとへ

こんごちは。といわれてうれしかった。つぎは  
ぼくからいいいな。

いなべ市 小学1年生 野呂 樹

学校法人高田学苑高田短期大学賞

今村先生へ

もうすぐ習字教室を閉めるのですね。御手本  
から学び続けた事は私の手の中に染み込んでい  
ます。だから離れてしまっても先生の温かい手  
とは、ずっと一緒にいられます。

川越町 小学5年生 伊藤 真理彩



優秀賞

地域のひとへ

「おかえり」私は一度ごきつとした後「ただいま」って。ただの帰り道で心が温まる瞬間。びっくりするけど、嬉しい感じ。挨拶してくれてありがとうございます。次は私からしてみよう。

大紀町 中学3年生 砂田 日菜海

隣のおじさん、おばさんへ

毎日学校へ行くとき見守ってくれてありがとうございます。いつも大事に育てた野菜をおすそ分けしてくれてありがとうございます。夏にくれたすいか、美味しかったです。これからも元気に過ごしてね。いつもありがとうございます。

松阪市 高校2年生 松本 理奈

佳作

地域のひとへ

いつもありがとうございます。こんどは、てれずに言いたいな。

いなべ市 小学2年生 桑山 桜季

地域のひとへ

ありがとうございます。せんせい、からだこころもげんきになったよ。

いなべ市 小学2年生 弓矢 果苑

隣のばあちゃんへ

学校から帰ると「お帰り」仕事で母さんが遅い時、夕食に招いてくれた。いっぱい話し、笑い、叱られたりほめられたり、まるでばあちゃんだった。見守りありがとう！

京都府 70代 笹谷 豊子

## 審査委員 メッセージ

# 審査委員メッセージ

先日ある作品の中で「〜してあげた」という表現が恩着せがましく感じるので削って欲しいと二十代の編集者から指摘を受けました。子どもたちへの言葉狩りがさらに進んだことを実感しています。生きていくと、人はいろんなことをしてあげたりしてもらったり、その繰り返しだと思うのです。そのために「ありがとう」や「ごめんなさい」があるのだと思います。これからもたくさんの方のありがとうを、おくったりもらったりしましょうね。

審査委員長 村上 しいい (児童文学作家)

審査を終えた今、心が温まり、前向きに進もう！と勇気が湧いてきました。「ありがとう」という言葉は、言われた方はもちろん、周りや言った本人も幸せになる魔法の言葉ですね。

私自身、子育てをしながら感じることは、家族をはじめ地域の皆さんの支えのおかげで頑張れて、笑顔で過ごせるということ。その中で、特に子ども達が感謝を伝える姿勢にじんときます。共感できるもの、真似したいと思うもの、応援したくなるもの…素敵な一行詩の数々に込められた想いがたくさん広がりますように。

三重テレビ放送株式会社報道制作局アナウンサー 北村 実穂

今年も、「ありがとうの一行詩コンクール」の審査に参加させていただきました。コロナ禍で希薄となっていた人とのつながりを感じさせてくれる作品が多かったように思います。短い言葉の中に相手への思いが詰まっており、審査していることを忘れ、温かい気持ちになれました。身近な人に感謝の気持ちを伝える、このすばらしい取り組みに今後もたくさんの方が参加してくださることを期待します。

高田短期大学キャリア育成学科長 野呂 健一

## 審査委員 メッセージ

どの作品も、それぞれのシチュエーションが思い浮かび、とてもあたたかい気持ちになりました。人生を豊かにするのは、決してドラマチックなエピソードだけでなく、むしろ、日常の中の小さな思いやりや優しさに触れることなのですね。伝える人と伝えられる人の両方を幸せにする「ありがとう」。思うだけでなく、言葉にして、きちんと伝えていきたいと思っています。

みえ次世代育成応援ネットワーク運営委員 坂井 治美

今回もたくさんさんの素敵な作品に出会わせていただき、ありがとうございました。  
うございます。

作者の満面の笑顔を思い浮かべてこちらでも思わず笑ったり、心をキュッとつかまれたりしながら審査しました。

2024年は能登半島の震災に始まりました。本当に辛い時、ありがとこの気持ちは心の奥底に隠れてしまうかもしれません。心と心のつながりが、次の「ありがと」を生み、少しずつ心穏やかになりますように、と願います。

ピアニスト・ピアノ指導者 飯田 文美

今回、作品を審査する中で、誠実な人の営みを感じ取ることができ、私自身の生き方を省みることにつながりました。

令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行し、マスクを外す人も増え、「ありがと」の感謝の思いが、豊かな表情と共に伝えられていくことをうれしく思います。

世界では、人と人の争いが絶えませんが、日々の生活で起こっている出来事を豊かな感性で感じ取ること、一人ひとりが多くの人に支えられ生かされていると知ることが、世の中をよい方向に変えていく一歩であるということをごさんの一行詩から学びました。

多くのことを学ばせていただいた全ての一行詩に「ありがと」を伝えたいと思います。

三重県教育委員会教育長 福永 和伸

## 審査委員 メッセージ

昨年に引き続き審査を担当させていただきました。短い一行詩から家族や友達を思いやる気持ちがあふれる、思わず心が温かくなる作品ばかりでした。











今年度は、コロナ禍を経験し、当たり前と思っていた日々の生活の大切さに気づかされる一年でした。

子どもたちには、多くの皆さんと協力し、これまで我慢してきた体験や交流の機会をたくさん提供していくとともに、人と人とのふれあいを通じて感謝や思いやりの心が家庭や地域に広がることを願っています。

三重県子ども・福祉部長 中村 徳久



## 第5期 みえの子ども応援プロジェクト協賛一覧

<p><b>NOMURA</b> 野村アセットマネジメント</p>	<p> Hama Engineering</p>	<p> 三重出光会</p>
<p> <b>百五銀行</b> FRONTIER BANKING</p>	<p> <b>三十三銀行</b></p>	<p> 井村屋グループ</p>
<p> <b>中京銀行</b></p>	<p> 三重交通グループ</p>	<p>伊勢名物  <b>赤福</b></p>
<p>三重県信用金庫協会</p>	<p> いい味、ヤマモリ♪ <b>ヤマモリ</b></p>	<p> 三愛物産株式会社</p>
<p>Tomorrow, Together <b>KDDI</b></p>		

## ●募集の概要●

**【募集作品】** 思っているけれどなかなかお互いに伝えられない、大切な人への「ありがとう」の気持ちをテーマにした一行詩。

**家族部門** 家族に伝える部門です。

**友だち部門** 友だちに伝える部門です。

**地域部門** 地域の方、職場の方などに伝える部門です。

**【募集期間】** 令和5年7月10日（月）～10月10日（火）（当日消印有効）

**【主催】** 三重県、みえ次世代育成応援ネットワーク

## ●応募状況●

応募総数 5,425 作品

## ●お問合せ●

三重県子ども・福祉部 少子化対策課

TEL 059-224-2057 FAX 059-224-2270

E-mail [jisedai@pref.mie.lg.jp](mailto:jisedai@pref.mie.lg.jp)

表紙写真は、田中孝典様の作品です。

## みえの子ども応援プロジェクトとは？

子どもが自らの力で夢や希望を実現することを支えるため、県内外の企業・個人の皆様からのご寄附を事業費として活用しているプロジェクトです！

「ありがとうの一行詩コンクール」は、「みえの子ども応援プロジェクト」事業の1つとして実施しています！

## ご寄附の活用事業（令和5年度）

### ○子どもの会社見学 オシゴトチャレンジ ミエキッズ

子どもたちに貴重な学びや体験の機会を提供するため、「子どもの会社見学」協力企業と参加希望施設・団体（幼稚園、保育園、学童保育、放課後等デイサービス、児童福祉施設、子どもの居場所団体等）をマッチングしました。

会社  
見学

三泗ホンダ販売株式会社 × もりのくに国際幼稚園

<見学内容>

- ・車と整備についてお話
- ・簡単な工具やネジに触れてみる
- ・車の整備を行っている様子を見学



出前  
講座

株式会社北村組 × 放課後児童クラブ「azakakids」

<見学内容>

- ・校庭に白線でラインを引き建設施工管理のお仕事を説明
- ・高所作業車に乗車体験、ドローン空撮の実演を見学

